

## 恋人と結婚相手に対して求めるものの違い

— 性差と恋人の捉え方・恋愛経験の有無から<sup>1)</sup> —

天谷 祐子<sup>2)</sup>

### 問題と目的

#### 1. はじめに

「恋愛相手と結婚相手は別である」といった言葉が聞かれることがある(遠藤・山根・堀, 1990)。具体的に、恋愛相手と結婚相手に対するとらえ方は、どの部分がどのように異なるのであろうか?それとも、恋愛相手との交際が深まるにつれて、相手に対してそれまでとは質的に異なる感情や態度が生じてくるのだろうか?本研究では、恋愛と結婚の間の関連のあり方、現在の恋人を結婚相手として見ている人と、結婚相手として見ていない人の間で、相手に対する感情や態度の認識にどのような違いが見られるのか、といった観点から、両者の位置づけの違いを検討する。また、性差、恋愛経験の有無による違いについても補足的に検討する。

#### 2. 恋愛と結婚に関する研究

社会心理学における恋愛・結婚研究は、対人魅力の分野の一部として位置づけられ、研究が蓄積されてきている。その中で、恋愛(相手)に対する意識や感情を、類型別に検討しているものに、Lee (1977) の理論研究が見られる。Lee (1977) は、恋愛に関する書物から総合的に6つの類型を見出し、恋愛6類型(エロス:美への愛, ストーゲイ:友愛的な愛, ルダス:遊びの愛, アガベ:愛他的な愛, マニア:狂氣的な愛, プラグマ:実利的な愛, 詳細はTable 1 参照)の理論を提起している。それぞれ6つの類型間の関連は、Figure 1 のような関係図が描かれるという。隣り合う類型同士は類似点が見られるが、お互いの距離が遠い類型同士はお互いを理解できないとされている。このLee (1977) の6つの恋愛類型を、質問紙によって簡便に測定できる尺度を松井・

Table 1 Leeの恋愛6類型

マニア (狂氣的な愛)	独占欲が強い。嫉妬、憑執、悲哀などの激しい感情を伴う。
エロス (美への愛)	恋愛を至上のものと考えており、ロマンチックな考えや行動をとる。 相手の外見を重視し、強烈な一目ぼれを起こす。
アガベ (愛他的な愛)	相手の利益だけを考え、相手のために自分自身を犠牲にすることも厭わない愛。
ストーゲイ (友愛的な愛)	穏やかな友情的な恋愛。 長い時間をかけて、愛がはぐくまれる。
プラグマ (実利的な愛)	恋愛を地位の上昇などの手段として考えている。 相手の選択においては、社会的な地位のつりあいなど、いろいろな基準を立てている。
ルダス (遊びの愛)	恋愛をゲームと捉え、楽しむことを大切に考える。 相手に執着せず、相手との距離をとっておこうとする。 複数の相手と恋愛できる。

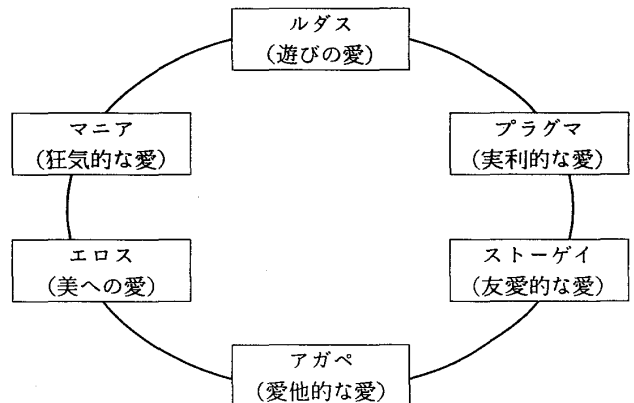


Figure 1 Leeの恋愛6類型の関係図

- 1) 本研究の一部は日本心理学会第69回大会で発表された。
- 2) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究生。指導教官: 村上隆教授。現所属: 東海学園大学人文学部。

木賊・立澤・大久保・大前・岡村・米田(1990)が開発し、その男女差や恋愛の深まりとの関連を検討している。ここで注意すべき点は、社会心理学においては、恋愛関係についての研究が、結婚を切り離れたものとして研

究が進められている(松井, 1990) ことである。結婚の位置づけが、恋愛の深まりの最終形態として位置づけられているのみで、恋愛相手を結婚相手として認識するようになると、それぞれの類型や得点にどのような変化が見られるのか、またそれぞれの類型や得点にどのような変化が見られた時に、恋愛相手を結婚相手として認識するようになるのか、といった観点からの検討はなされていない。

さて、恋愛と結婚に関しては、家族社会学の分野においても研究が蓄積されてきている。特に未婚化・晩婚化といった観点からの研究が最近が多い(例えば神原, 2004など)。しかし、日本の家族社会学の分野においては、結婚後の夫婦関係を扱った研究が中心であったり(松井, 1990)、扱われる変数が、職業や収入、居住地といった社会的変数であったりすることが多い。個々人の心理的な変数を加えた検討はほとんどなされていない(伊東, 1997) のが現状である。

また、結婚に対する意識に関する研究は、特に女性のライフコースの選択といった観点からの意識調査的なものが多い(例えば、森本・中嶋・山地, 2000, 梅澤, 2002など)。このような調査においては、「結婚後、仕事はしたいのかどうか」「結婚後、子どもはほしいのか」といった、自分自身が(相手に関わらず、また自分自身の恋愛パターンに関わらず)どのようなライフコースを選択したいのかといった観点からの質問項目が中心である。従って、現在の恋愛相手や将来の結婚相手に対して、本人がどのような感情を抱いているのか、といった観点からの質問は含まれていない。

本研究では、人々が恋愛相手に対する感情や態度の認識には、複数の種類やそれらの強弱が見られ、結婚相手に対して求める感情や態度も同様に異なっていることを前提とする。その中で、恋愛相手と結婚相手に求める複数の種類の感情や態度の間どこにどのような関連が見られるか、について注目する。そのために本研究では、Leeの恋愛類型理論に基づいて作成された松井ら(1990)の尺度を使用し、恋愛相手と結婚相手に対して求めるものの個人差を調べる。

### 3. 性差

社会心理学における恋愛の研究(例えば松井, 1990, 飛田, 1991)では、恋愛類型の得点について、性差が認められている。また、恋愛や結婚に対する意識調査においても、女性のみを対象としている研究が見られる(例えば森本ら, 2000)。松井(1993a)によると、恋愛について、その最終形態である結婚は、女性の人生を大きく左右するものであり、女性の方がその入り口である恋

愛においても慎重なやり方で相手に接することを指摘している。また、結婚後の夫婦関係についての研究においても、妻側の観点を重要視した研究(例えば柏木・平山, 2003)、性別役割分業や性役割観との関連を扱った研究(例えば中井, 2000)などが多く見られることから、恋愛・結婚に関する研究においては、性による位置づけの違いが大きいものと考えられる。従って、本研究においても、恋愛相手と結婚相手に求める感情や態度が、性によってどのように異なるのかという点に着目しながら検討する。

### 4. 本研究の目的

本研究では、恋愛相手と結婚相手に対する感情や態度をそれぞれ質問し、両者の類型や得点の間にどのような違いが見られるのか、といった観点から、恋愛相手と将来の結婚相手に対する感情や態度が変化する部分をとらえようとするものである。具体的には、大学生を対象に、Leeの恋愛類型理論に基づいた松井ら(1990)の尺度を使用して、相手を「結婚相手」に変更した質問項目を設定して結婚類型尺度も作成し、恋愛相手と結婚相手それぞれに求めている感情や態度をたずねる。これにより、(1)各類型の得点や類型間の相関のあり方を検討する。そして、(2)これらの得点や関連のあり方が性によって異なるのかを検討する。さらに、(3)恋人がいる場合は、恋人との結婚を考えているか否かによって、相手に対する感情や態度の類型得点がどのように異なるのかを検討する。それにより、恋愛の延長としての結婚について、現在の大学生がどのように意識しているのか、を知ることができる。最後に、(4)恋愛経験は人を成長させると言われることがあるが(例えば恋愛経験により異性関係スキルの向上が見られるという堀毛(1994)の知見や異性を見る目を養うことができるという詫摩(1973)の指摘)、現在恋人がいない場合は、恋愛経験の有無によって、恋愛相手や結婚相手に対する恋愛類型得点やお互いの関連のあり方がどのように異なるのかを、実証的な観点から検討する。

### 方法

対象：愛知県内の大学生179名(男130名, 女44名, 不明1名)であった。平均年齢は19.0歳( $SD = 1.68$ )であった。

質問紙：(0)フェイスシート：(a)今まである特定の人と恋愛関係にあったことがあるか否か、(b)現在恋人がいるかいないか、(c) (恋人がいると答えた人のみ) その恋人との結婚を考えているか(「考えている」、「どちらともいえない」、「考えていない」、「わからない」から選択)を

たずねた。

(1)恋愛類型尺度：Leeの恋愛類型理論に基づいて松井ら（1990）が作成した恋愛類型尺度53項目のうち、49項目を使用した。

(2)結婚類型尺度：松井ら（1990）の恋愛類型尺度の相手を、「恋愛相手」ではなく、「結婚相手」に変更してたずねた。しかし、結婚相手との関係性から類推するにはふさわしくない言い回しの項目が出現するため、Leeの6類型のうち、エロス（3項目）、アガペ（7項目）、マニア（6項目）、プラグマ（8項目）の4類型（合計24項目）に絞った。

実施時期：2004年11月下旬に、授業時間を利用して集団実施された。

## 結果と考察

### 1. 恋愛類型尺度と結婚類型尺度の因子分析

恋愛類型尺度と結婚類型尺度について、因子分析（主

因子法、プロクラステス回転）を行った。恋愛類型尺度は、Lee（1977）の恋愛6類型理論に基づき因子数を6、結婚類型尺度は4とした。固有値の減衰状況は、恋愛類型尺度については第1固有値から7.46、3.45、2.63、2.07、1.63、1.30、1.12であり、結婚類型尺度については第1固有値から5.61、3.72、1.69、0.86、0.71であった。因子構造については、恋愛類型尺度では3項目、結婚類型尺度では1項目以外は、松井ら（1990）のものと同じものとなった（恋愛類型尺度の因子分析結果はTable 2、結婚類型尺度の因子分析結果はTable 3参照）。信頼性係数は恋愛類型の各下位尺度については $\alpha = .59 \sim .83$ 、結婚類型の各下位尺度については $\alpha = .68 \sim .86$ であった。従って、松井ら（1990）の因子構造と同様の項目の得点を合計し、各下位尺度得点とした。

Table 2 恋愛類型尺度因子分析結果

理論的分類	項目番号		因子 I	因子 II	因子 III	因子 IV	因子 V	因子 VI	共通性
エ	1	彼(女)と私は会うとすぐにお互いひかれあった	.649	-.227	.022	.159	-.150	.130	.460
エ	9	彼(女)と私は、お互いに結び付いていると感じる	.645	.208	-.161	.047	-.035	.107	.541
エ	14	彼(女)と私はお互いに、本当に理解しあっている	.617	.117	-.207	.104	-.162	.058	.509
エ	22	彼(女)と一緒にいると、私たちが本当に愛しあっていることを実感する	.594	.019	-.056	.012	.267	-.017	.512
エ	4	彼(女)と私は、外見的にうまくつりあっている	.487	-.110	.037	.074	-.048	.046	.236
エ	10	彼(女)と私はかなり早く、感情的にのめり込んでしまった	.413	-.105	-.055	.188	.112	-.091	.302
エ	32	彼(女)と私は、お互いに会うためにこの世に生まれてきたような気がする	.408	-.010	-.003	.182	.063	.067	.223
エ	35	彼(女)といると甘くやさしい雰囲気になる	.348	.013	.256	.208	.315	-.044	.371
ス	28	彼(女)とは、友人関係から自然に恋人関係へと発展した(させたい)	.103	.554	.310	-.046	.056	-.200	.438
ス	11	私は彼(女)との友情を大切にしたい	.077	.528	-.168	.024	-.124	.036	.342
ス	27	彼(女)との交際が終わっても、友人でいたいと思う	.077	.489	-.009	.012	.031	-.063	.251
ス	34	長い友人づきあいを経て、彼(女)と恋人になった	.012	.460	.217	.003	.042	.111	.281
ス	45	最良の愛は、長い友情の中から育つ	-.094	.416	-.020	.162	.021	.211	.279
ス	2	私達の、友情がいつ愛に変わったのか、はっきりとは言えない	-.217	.287	-.274	-.040	.067	.100	.176
ル	36	私は彼(女)にあれこれと干渉されると、その人と別れたい	.055	-.041	.575	-.157	-.093	.140	.428
ル	16	私が必要と感じたときだけ彼(彼女)にそばにいてほしいと思う	.196	-.167	.460	-.115	-.097	.070	.287
ル	23	彼(女)とは定期的に会うよりも、気が向いたときにだけ会っている	.036	-.004	.440	-.140	-.071	.042	.245
ル	49	恋人から頼られすぎたり、ベタベタされるのが嫌である	-.030	.116	.410	.114	-.308	.256	.355
ル	19	彼(女)とはあまり深入りせず、すっきりした関係でありたい	-.072	.136	.396	-.123	-.306	.078	.363
ル	41	特定の交際相手を決めたくないと思う	-.140	-.025	.349	.080	-.057	.148	.183
ル	12	彼(女)が私に頼りすぎるときには、私は少し身を引きたくなる	.044	.025	.249	-.066	-.240	.194	.190

恋人と結婚相手に対して求めるものの違い

ア	5	私自身の幸福よりも、彼(女)の幸福が優先しないと、私は幸福になれない	.082	-.037	-.015	.810	-.074	.067	.621
ア	3	彼(女)が苦しむくらいなら、私自身が苦しんだ方がまだ	.004	.043	-.138	.722	.008	-.004	.603
ア	7	彼(女)の望みをかなえるためなら、私自身の望みはいつでも喜んで犠牲にできる	.074	-.093	-.181	.700	-.029	.081	.550
ア	20	私は彼(女)のためなら、死ぬことさえも恐れない	.007	-.073	-.203	.610	-.021	.027	.444
ア	31	たとえ彼(彼女)からまったく愛されなくても、私は彼(彼女)を愛していきたい	.049	.049	.256	.557	.023	-.089	.365
ア	37	彼(女)のためなら、私はどんなことでも我慢できる	.083	.026	.118	.519	.030	-.092	.310
ア	30	どんなにつらくても私は彼(女)に対して、いつでもやさしくしてあげたい	.118	.000	.042	.471	.133	-.017	.294
マ	25	彼(女)とけんかをすると、不安や心配でやつれてしまう	-.072	.057	-.054	.346	.327	.096	.279
ア	17	私は彼(女)と一緒になら、どんなに貧乏な暮らしでも平気である	.154	.134	-.216	.267	-.017	-.169	.262
マ	15	彼(女)が私以外の異性と楽しそうにしていると、気になって仕方がない	-.146	-.015	-.252	-.097	.745	.175	.515
マ	8	彼(女)が誰か他の人とつきあっているのではないかと疑うと、私は落ち着いていられない	-.071	.107	-.213	-.107	.709	.120	.466
マ	6	彼(女)が気にかけてくれないとき、私はすっかり気がめいってしまう	-.147	-.049	-.156	.090	.690	.107	.486
マ	18	彼(女)は私だけのものであってほしい	.314	-.151	.004	-.116	.623	-.034	.585
マ	26	彼(女)からの愛情が、ほんのわずかでもかけていると感じた時には、悩み苦しむ	.090	.106	-.082	-.041	.559	.066	.332
マ	29	彼(女)のことを思うと、強い感情が突き上げてどうしようもなくなる	.084	.073	-.204	.126	.494	-.134	.429
マ	21	彼(女)には、いつも私のことだけを考えていてほしい	.300	-.080	-.172	-.094	.483	.102	.406
マ	13	私は気がつく、いつも彼(女)のことを考えている	.216	.026	-.213	.333	.371	.019	.488
ア	24	私は彼(女)のためなら、できないこともできるようにしてみせる	.186	.057	-.151	.240	.347	.063	.328
エ	33	彼(女)との愛を大切にしたいと、気を使っている	.236	.056	.284	.292	.289	-.019	.337
プ	40	恋人を選ぶときには、その人が私の家族にどう受け取られるかを一番考える	.108	-.007	.270	.014	-.078	.651	.506
プ	44	恋人を選ぶとき、その人は将来性があるだろうかと考えてみる	-.023	.002	.055	-.116	.184	.646	.441
プ	43	恋人を選ぶときには、その人が私の経歴にどう影響するかも考える	-.041	.141	.029	-.040	-.004	.620	.431
プ	46	恋人を選ぶとき、その人の学歴や育ち(家柄)が、私と釣り合っているかどうかを考える	-.164	-.116	-.072	.006	.166	.608	.386
プ	39	私は恋人を選ぶ前に、自分の人生を慎重に計画しようとする	.073	.026	.278	.061	.012	.603	.418
プ	47	恋人を選ぶときには、その人に経済力があるかどうかを考える	.004	-.040	.132	-.147	-.044	.583	.438
プ	48	恋人を選ぶとき、その人とのつきあいは、私の格(レベル)を下げないかと考える	.044	.066	.103	-.022	.099	.561	.325
プ	38	私は、交際相手と深く関わる前に、その人がどんな人になるだろうかとよく考える	.178	-.036	.355	.135	.052	.473	.317
プ	42	恋人を選ぶのに重要な要素は、その人がよい親になるかどうかだ	.054	.140	.060	.037	.201	.399	.199
		因子寄与	7.46	3.45	2.63	2.07	1.63	1.30	
		因子間相関	-	.00	-.23	.05	.20	-.06	
				-	.02	.22	-.02	.06	
					-	-.22	.04	.00	
						-	.25	-.20	
							-	-.21	

注. エ: エロス, ス: ストージ, ル: ルダス, ア: アガペ, マ: マニア, プ: プラグマ

Table 3 結婚類型尺度因子分析結果

理論的分類	項目番号		因子 I	因子 II	因子 III	因子 IV	共通性
エ	16	結婚相手といると甘くやさしい雰囲気になるだろう	.630	.286	.006	.051	.511
エ	15	結婚相手との愛を大切にしたいと、気を使うだろう	.487	.280	.047	.085	.375
ア	13	どんなにたつらくても私は結婚相手に対して、いつでもやさしくしてあげたい	.465	-.285	.165	-.057	.449
エ	5	結婚相手と私はお互いに、本当に理解しあっているだろう	.373	.209	.194	-.022	.327
ア	3	結婚相手の望みをかなえるためなら、私自身の望みはいつでも喜んで犠牲にできるだろう	.057	.792	-.032	.036	.616
ア	9	私は結婚相手のためなら、死ぬことさえも恐れないだろう	-.017	.761	-.009	-.045	.578
ア	17	結婚相手のためなら、私はどんなことでも我慢できるだろう	.392	.663	-.080	.132	.577
ア	1	私自身の幸福よりも、結婚相手の幸福が優先しないと、私は幸福になれないだろう	.168	.648	.031	-.037	.486
ア	8	私は結婚相手と一緒になら、どんなに貧乏な暮らしでも平気だと思う	-.093	.577	.148	-.160	.431
ア	14	たとえ結婚相手からまったく愛されなくても、私は結婚相手を愛していたい	.147	.524	.026	.001	.321
マ	12	結婚相手からの愛情が、ほんのわずかでもかけていると感じた時には、悩み苦しむだろう	-.053	-.003	.778	-.031	.563
マ	6	結婚相手が私以外の異性と楽しそうにしていると、気になって仕方がないだろう	.119	-.115	.743	.006	.598
マ	2	結婚相手が気にかけてくれないとき、私はすっかり気がめいってしまうだろう	.108	.036	.641	-.012	.503
マ	4	結婚相手が誰か他の人とつきあっているのではないかと疑うと、私は落ち着いていられないだろう	.287	-.163	.632	.065	.611
マ	10	結婚相手には、いつも私のことだけを考えてほしい	.012	.216	.566	.012	.464
マ	11	結婚相手とけんかをすると、不安や心配でやつれてしまうと思う	-.079	.303	.537	.009	.462
プ	21	結婚相手を選ぶときには、その人が私の経歴にどう影響するかも考えるだろう	-.128	.156	-.046	.741	.569
プ	24	結婚相手を選ぶときには、その人に経済力があるかどうかを考えるだろう	-.151	-.178	.110	.734	.609
プ	23	結婚相手を選ぶとき、その人の学歴や育ち(家柄)が、私と釣り合っているかどうかを考えるだろう	-.175	.067	.067	.727	.566
プ	22	結婚相手を選ぶとき、その人は将来性があるかどうかと考えるだろう	.063	-.203	.015	.692	.536
プ	19	結婚相手を選ぶときには、その人が私の家族にどう受け取られるかを一番に考えるだろう	.113	.118	-.141	.678	.450
プ	25	結婚相手を選ぶとき、私の格(レベル)を下げないかと考えるだろう	-.167	.003	.157	.673	.508
プ	20	結婚相手を選ぶのに重要な要素は、その人がよい親になるかどうかだ	.443	.079	-.146	.536	.430
プ	18	私は結婚相手を選ぶ前に、自分の人生を慎重に計画しようとするだろう	.190	-.191	.036	.500	.334
因子寄与			5.61	3.72	1.69	.86	
因子間相関			-	.07	.46	.01	
				-	.36	-.04	
					-	.14	

注. エ: エロス, ア: アガペ, マ: マニア, プ: プラグマ

## 2. 恋愛類型尺度と結婚類型尺度の性差

### (1) 恋愛類型尺度の性差

恋愛類型尺度については、松井ら(1990)の調査結果において、性差が見られている。本研究においても、恋愛類型尺度に男女差が見られるかどうかについて、各恋愛類型下位尺度ごとにt検定を行った。その結果(Table 4 参照)、アガペとプラグマについて有意差が見られ

た(順に  $t = -1.25, p < .05, t = -2.98, p < .01$ )。アガペについては男性の方が女性よりも得点が高く、プラグマについては女性の方が男性よりも得点が高かった。松井ら(1990)では、ルダスとプラグマについて女性の方が男性よりも高く、アガペについて男性の方が高い結果となっている。本研究では、ルダスについては性差は見られなかったが、アガペとプラグマについては、松井

Table 4 恋愛類型各下位尺度ごとの *t* 検定結果

		平均値	SD	<i>t</i>
エロス(恋愛)	男	28.95	(5.31)	1.10
	女	27.91	(5.88)	
-----				
ストーゲイ(恋愛)	男	20.52	(3.75)	0.55
	女	20.16	(4.24)	
-----				
ルダス(恋愛)	男	19.05	(4.76)	-1.25
	女	20.31	(6.17)	
-----				
アガベ(恋愛)	男	28.78	(6.37)	2.42*
	女	26.00	(7.40)	
-----				
マニア(恋愛)	男	30.24	(6.39)	-0.44
	女	30.76	(7.86)	
-----				
プラグマ(恋愛)	男	21.23	(6.32)	-2.98**
	女	24.56	(6.83)	

注. \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$

ら (1990) の結果と同様の性差が見られた。

(2) 結婚類型尺度の性差

結婚類型尺度の各下位尺度について、恋愛類型尺度と同様の性差が見られるかどうか、*t* 検定を行った。その結果 (Table 5 参照), アガベとプラグマについて、有意差が見られた (順に  $t = 5.32, p < .001, t = -4.00, p < .001$ )。アガベについては男性の方が女性よりも得点が高く、プラグマについては女性のほうが男性よりも得点が高かった。この結果は、本研究における恋愛類型尺度の性差と同じ傾向であった。

Table 5 結婚類型各下位尺度ごとの *t* 検定結果

		平均値	SD	<i>t</i>
エロス(結婚)	男	7.68	(1.72)	1.57
	女	7.20	(1.84)	
-----				
アガベ(結婚)	男	19.08	(4.85)	5.33***
	女	14.64	(4.73)	
-----				
マニア(結婚)	男	20.72	(4.89)	0.47
	女	20.31	(5.66)	
-----				
プラグマ(結婚)	男	21.95	(6.47)	-4.00***
	女	26.40	(6.33)	

注. \*\*\*:  $p < .001$

3. 恋愛類型尺度と結婚類型尺度の相関

(1) 全体の傾向

恋愛類型尺度と結婚類型尺度間の相関を算出した (Table 6 参照)。その結果、恋愛類型下位尺度と結婚類型下位尺度で同じ類型同士 (例えばエロス恋愛類型下位尺度とエロス結婚類型下位尺度) が総じて強い正の相関が見られ、エロス恋愛-エロス結婚間が .48 ( $p < .001$ ), アガベ恋愛-アガベ結婚間が .66 ( $p < .001$ ), マニア恋愛-

Table 6 恋愛類型尺度と結婚類型尺度間の相関

	エロス結婚	アガベ結婚	マニア結婚	プラグマ結婚
エロス恋愛	.48 ***	.38 ***	.36 ***	.06
	(.49)***	(.35)***	(.29)***	(.04)
	(.48)***	(.49)***	(.56)***	(.11)
-----				
ストーゲイ恋愛	.06	.05	.00	.00
	(.09)	(.03)	(.01)	(.04)
	(.01)	(.06)	(-.01)	(-.11)
-----				
ルダス恋愛	-.20 **	-.18 *	-.26 ***	.25 ***
	(-.23)**	(-.11)	(-.20)*	(.30)***
	(-.12)	(-.25)+	(-.37)*	(.08)
-----				
アガベ恋愛	.28 ***	.66 ***	.32 ***	-.18 *
	(.33)***	(.65)***	(.28)**	(-.10)
	(.11)	(.68)***	(.39)**	(-.21)
-----				
マニア恋愛	.34 ***	.23 **	.67 ***	.02
	(.39)***	(.16)+	(.58)***	(.03)
	(.25)+	(.50)***	(.84)***	(.01)
-----				
プラグマ恋愛	.12	-.11	.12	.55 ***
	(.06)	(.01)	(.14)	(.50)***
	(.03)*	(-.17)	(.14)	(.51)***

注. 1 段目: 全体の値, 2 段目: 男性の値, 3 段目: 女性の値  
\*\*\*:  $p < .001$ , \*\*:  $p < .01$ , \*:  $p < .05$ , †:  $p < .10$

マニア結婚間が .67 ( $p < .001$ ), プラグマ恋愛-プラグマ結婚間が .55 ( $p < .001$ ) であった。中でも、アガベとマニアについては強い正の相関が見られた。現在の恋愛類型のうち、愛他的なアガベ得点が高い人は、将来の結婚相手に対しても、恋愛相手と同様に愛他的な傾向が強いことが示された。また、現在の恋愛類型のうち、独占欲の強さや嫉妬などの激しい感情を伴うマニア得点が高い人は、将来の結婚相手に対しても、恋愛相手と同様の傾向を求めることが示された。

また、現在の恋愛類型のうち、エロスとアガベとマニアの得点が高いと、将来の結婚相手に対してもそれぞれエロス・アガベ・マニアの得点が高いという正の関連が見られた。具体的には、エロス恋愛-アガベ結婚が .38 ( $p < .001$ ), エロス恋愛-マニア結婚が .36 ( $p < .001$ ), アガベ恋愛-エロス結婚が .28 ( $p < .001$ ), アガベ恋愛-マニア結婚が .32 ( $p < .001$ ), マニア恋愛-エロス結婚が .34 ( $p < .001$ ), マニア恋愛-アガベ結婚が .23 ( $p < .01$ ) であった。

そして、ルダスについては、プラグマ結婚と正の関連 (.25,  $p < .001$ ), エロス, アガベ, マニアと負の関連 (順に -.20, -.18, -.26, すべて  $p < .001$ ) が見られた。

(2) 性差の観点から

恋愛類型尺度と結婚類型尺度間の相関を、性別に算出した (Table 6 の 2 段目と 3 段目参照)。その結果、片

方の性には関連が見られるが、他方の性には関連の見られない部分と、性によって有意な相関係数の大きさが異なる部分が見られた。

まず、片方の性には関連が見られるが、他方の性には関連が見られなかったのは、ルダス恋愛-エロス結婚間が男性では  $-0.23$  ( $p < .01$ ) であったのに対し、女性では有意な値ではなかった。また、ルダス恋愛-プラグマ結婚間が、男性では  $.30$  ( $p < .001$ ) であったのに対し、女性では有意な値ではなかった。さらに、アガベ恋愛-エロス結婚間が、男性では  $.33$  ( $p < .001$ ) であったのに対し、女性では有意な値ではなかった。そして、マニア恋愛-エロス結婚間が、男性では  $.39$  ( $p < .001$ ) であったのに対し、女性は  $.25$  で有意傾向であった。マニア恋愛-アガベ結婚間では、男性では  $.16$  ( $p < .10$  有意傾向) であったのに対し、女性は  $.50$  ( $p < .001$ ) であった。そして、プラグマ恋愛-エロス結婚間が、男性では有意な値ではなかったのに対し、女性では  $.33$  ( $p < .05$ ) であった。

そして、有意な相関係数の大きさが、性によって異なる部分は、マニア恋愛-マニア結婚間 (男性は  $.29$ , 女性は  $.56$ )、エロス恋愛-アガベ結婚間 (男性  $.35$ , 女性  $.49$ )、エロス恋愛-マニア結婚間 (男性  $.29$ , 女性  $.56$ )、アガベ恋愛-マニア結婚間 (男性  $.28$ , 女性  $.39$ ) であった。いずれも女性の方が値が高い結果となった。またルダス恋愛-マニア結婚間 (男性  $-.20$ , 女性  $-.37$ ) では、女性のほうが負の関連が強い結果となった。

#### 4. 恋愛類型尺度と結婚類型尺度について、恋人との結婚を考えているか否か、恋愛経験の有無別の $t$ 検定

##### (1) 恋人がいる群について-恋人との結婚を考えているか否か別の $t$ 検定

本研究の対象者のうち、恋人がいる人は42名 (男性27

名、女性15名) であった。そのうち、その恋人と結婚を考えている人は15名、考えていない人は9名、どちらともいえない人は11名、わからない人は5名、不明は2名であった。その中で、恋人と結婚を考えているか否か (考えている: 15名, 考えていない: 9名) の間で、恋愛類型尺度・結婚類型尺度それぞれの各下位尺度得点に差が見られるかどうかを、 $t$  検定を行った (Table 7 参照。恋愛類型・結婚類型尺度両者がそろっている4類型について述べる)。その結果、エロス恋愛尺度について、恋人との結婚を考えている群の方が、そうでない群よりも有意に高かった ( $t = 2.91$ ,  $p < .01$ )。現在の恋人との結婚を考えるかどうかは、現在の恋人とロマンチックな恋愛関係にあるか否かという、現在の状態が関連していることが示された。

また、プラグマ結婚尺度について有意傾向が見られ、恋人との結婚を考えている群の方が、そうでない群よりも高い傾向が見られた ( $t = 1.79$ ,  $p < .10$ )。恋人との結婚を考えている群が、そうでない群よりも、現在の自分の恋人が結婚相手としてふさわしいと判断している、または彼ら彼女らが結婚をより身近なものとして意識していることで、得点が高くなったと考えられる。なお、アガベ恋愛・結婚尺度とマニア恋愛・結婚尺度については有意な差は見出されなかった。

##### (2) 恋人がいない群について-恋愛経験の有無による $t$ 検定

恋人がいない群の中で、過去に恋愛経験があるか否かの間で、各下位尺度の得点に差が見られるかどうかを  $t$  検定を行い検討した。その結果 (Table 8 参照)、愛他的な感情を持つアガベについては、恋愛類型・結婚類型尺度ともに有意差が見られた (順に  $t = 2.25$ ,  $2.08$ , ともに  $p < .05$ )。恋愛経験のある群の方が、ない群よりも、いずれも得点が高かった。恋愛経験を通して、恋人や結

Table 7 恋人との結婚を考えているか否かによる恋愛類型尺度得点の  $t$  検定結果

	n	エロス恋愛			エロス結婚			アガベ恋愛			アガベ結婚		
		平均値	SD	t 値	平均値	SD	t 値	平均値	SD	t 値	平均値	SD	t 値
その恋人との結婚を考えている	15	33.93	(5.79)	2.91**	12.33	(1.95)	0.26	30.33	(8.03)	1.69	24.27	(6.06)	0.26
その恋人との結婚を考えていない	9	26.56	(6.39)		12.1	(2.15)		24.67	(7.76)		23.67	(4.15)	
	n	マニア恋愛			マニア結婚			プラグマ恋愛			プラグマ結婚		
		平均値	SD	t 値	平均値	SD	t 値	平均値	SD	t 値	平均値	SD	t 値
その恋人との結婚を考えている	15	32.87	(7.81)	1.11	23.3	(5.93)	0.55	22.07	(7.27)	0.45	22.67	(7.72)	1.79+
その恋人との結婚を考えていない	9	29.56	(5.50)		22.00	(4.64)		20.56	(9.25)		17.44	(5.20)	

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , + $p < .01$ ,

Table 8 恋人なし群の中で恋愛経験の有無による恋愛類型尺度得点のt検定結果

	エロス恋愛			エロス結婚			アガペ恋愛			アガペ結婚			
	n	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値
過去に恋愛経験あり	85	27.73	(4.53)	1.09	11.3	(2.03)	3.00*	28.48	(6.23)	2.25*	22.27	(4.79)	2.08*
過去に恋愛経験なし	34	26.74	(4.38)		10	(2.19)		25.56	(6.82)		20.09	(6.07)	

	マニア恋愛			マニア結婚			プラグマ恋愛			プラグマ結婚			
	n	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値	平均値	SD	t値
過去に恋愛経験あり	85	30.61	(6.59)	2.74**	20.5	(4.75)	1.93*	21.40	(6.08)	-3.14**	23.25	(6.21)	-0.10
過去に恋愛経験なし	34	27.06	(5.89)		18.7	(4.82)		25.38	(6.69)		24.50	(6.14)	

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , + $p < .10$ .

婚相手に対する愛他的な感情が出現する可能性が考えられる。

エロス恋愛尺度では差が見られなかったが、エロス結婚尺度では恋愛経験のある群の方が、ない群よりも有意に得点が高かった ( $t = 3.00, p < .05$ )。恋愛経験の有無によって、想定している恋人に対するロマンチックな感情には違いがないことが示された。一方、結婚相手に対しては、恋愛経験のある群の方が、恋愛の延長としての結婚、結婚相手とのロマンチックな関係をより想定しているようである。

マニア恋愛尺度では、恋愛経験のある群がない群よりも有意に得点が高く ( $t = 2.74, p < .01$ )、マニア結婚尺度でも同様の有意傾向が見られた ( $t = 1.93, p < .10$ )。相手に熱中する・独占欲が強い傾向は、恋愛経験のある群の方が恋人や結婚相手との間でより求めるようである。

プラグマ恋愛尺度では、恋愛経験のない群の方が、ある群よりも有意に得点が高かったが ( $t = -3.14, p < .01$ )、結婚尺度では差が見られなかった。恋愛経験のない方が、恋愛相手を選ぶ際に条件や地位を考慮することが示された。一方結婚相手の条件は、現在恋人がいない状況では、両群ともに想定しづらいことで、差が見られなかった可能性が考えられる。

## 総合考察

### 1. 恋愛類型と結婚類型尺度それぞれの男女差について

本研究の結果、恋愛類型尺度と結婚類型尺度では、どちらも一貫して、アガペ得点が男性の方が女性よりも高く、プラグマ得点が女性の方が男性よりも高い結果となった。恋愛類型尺度に関しては、ルダス得点の性差は本研究では見られなかったが、アガペ得点とプラグマ得点の性差は、松井ら (1990) の結果と同様のものとなった。松井ら (1990) は、この結果について「女性のほうが男

性より、恋愛の初期や中期において、交際相手に対する関与が低い」ことにより、女性がプラグマ得点が高く、男性がアガペ得点が高いと述べている。本研究の結果は、恋愛の初期にあたる大学生 (1, 2年生) の現在においては、松井ら (1990) の説明を裏づけるものであると言える。それだけでなく、大学生の現在における将来展望 (将来の結婚相手) に対する考え方も、現在と同じ傾向であることが示唆される。これは大学生である彼らが、将来の結婚相手に対する考え方も、現在の交際相手に対する考え方に基づいている現れであるという解釈もできる。この点を明らかにするためには、大学生の後半にあたる人や、大学を卒業した人を対象に、続けて調査を行うことが望まれる。

### 2. 恋愛類型と結婚類型間の関連について

#### (1) 全体的な傾向

本研究の結果、エロス・アガペ・マニアについて、恋愛相手に対する得点と結婚相手に対する得点の間に正の関連が見られた。松井 (1993a) では、大学生については、恋愛の6つのタイプのうち、マニア・アガペ・エロスの3つが中心的なものとして見られることを指摘している。また松井 (1993b) では、恋愛行動の進展段階別に、6つの恋愛類型の各得点の変化を見ている。その中では、「恋人として紹介」から「結婚の約束」への進展の間で、マニア尺度が有意に上昇している結果を見出している (男女別で行った場合は、女性のみ有意差)。またエロス尺度についても同様の傾向、ルダス得点については有意に下降している結果が見出されている。本研究の結果のうち、マニア・エロスの2つについては、松井 (1993b) で見られた結果を支持したものである。本研究では、それに加えアガペについても、同様の傾向が示されている。大学生が、現在の恋愛の中心的な類型に基づいて、結婚相手に対する認識を考えているのであれば、マニア・エロスだけでなく、アガペについても関連



が見られた本研究の結果は妥当なものと言えるだろう。

## (2) 男女で異なる傾向について

### ①男性により見られる傾向

男女別の結果を見てみると、まず男性に見られて女性に見られない、または関連があまりないものは、ルダス恋愛-エロス結婚（負の関連）、ルダス恋愛-プラグマ結婚（正の関連）、アガベ恋愛-エロス結婚（正の関連）、マニア恋愛-エロス結婚（正の関連）であった。男性については、恋愛をゲームととらえたり、相手に執着しないであったりすることは、結婚相手に対してロマンチックな感情を持たず、結婚相手を自分の地位上昇など基準を満たすべきものととらえていることにつながるようである。これは、恋愛を楽しむ人は、結婚生活にはあまり（心情面における）価値を見出さない傾向があることを示しているのかもしれない。

それ以外にも、アガベ恋愛-エロス結婚、マニア恋愛-エロス結婚の間は、男性に見られて女性にあまり見られない関連であった。現在の恋人に尽くしていたり、独占欲や激しい感情を持っている男性は、将来の結婚相手との間に、愛情豊かな関係を想定している傾向が示された。

### ②女性により見られる傾向

ルダス恋愛-アガベ結婚（負の関連）、ルダス恋愛-マニア結婚（負の関連）の間については、女性に見られて男性には見られない、または関連があまりない結果となった。女性については、恋愛をゲームととらえたり、相手に執着しないであったりすることは、結婚相手に対して尽くさないこと、結婚相手に対して独占欲や激しい感情を持たないことにつながっているようである。恋人にあまり執着しない女性には、結婚後も「私は私」と結婚相手と一定の距離を持ち、我が道を行くやり方を求める傾向があるのかもしれない。恋愛相手に対して、同じルダス得点が高くても、結婚相手に対する関連のあり方が性によって異なるのは興味深い結果である。

次に、エロス恋愛-アガベ結婚、エロス恋愛-マニア結婚、アガベ恋愛-マニア結婚、マニア恋愛-マニア結婚、マニア恋愛-アガベ結婚の間、つまりエロス、アガベ、マニアの恋愛-結婚の間の関連は、いずれも女性の方が関連がより強かった。特に、マニア恋愛-マニア結婚間の女性の値は.84であり、相手に対する独占欲、激しい感情は、女性にとっては、恋愛相手も結婚相手もほぼ同じものとして位置づけられているようである。また、恋愛相手に対して独占欲が強いと、結婚相手に尽くす傾向が、女性には見られた。これは、男性には見られない傾向である。結婚相手に尽くすという考えは、夫婦関係における伝統的な性役割に近いものであり、そのような考えを現代の女性自身が有している現れとも考えられる。

さらに、プラグマ恋愛-エロス結婚間の関係は、女性にのみ見られた。恋愛相手を自分の地位上昇と考えている女性は、将来の結婚相手との間に愛情豊かな関係を求めているようである。恋愛相手を選ぶ際に、その相手が自分の地位上昇に「役に立つ」かどうかを見極めることは、将来の自分の「幸せで愛情豊かな」結婚生活につながっている（それが実際に実現するかは別として）という信念を持っている傾向が、女性に見られるようである。

## 3. 現在の恋人を結婚相手として考えているか否かによる各類型のあり方について

本研究の結果、現在の恋人を結婚相手として考えているかどうかで、得点に差が見られたのは、エロス恋愛得点のみであった。現在の恋人に対するロマンチックな感情が強いかが、恋人との結婚を考えるかどうかと関連している可能性がある。本研究の対象は、恋愛の進展で言うと、初期の世代であると考えられる。現在の恋人を結婚相手として考えてはいても、現段階では、それは「そのつもり」であるにすぎず、一方的な思いである可能性もある。今後、彼らが自身の恋愛を深めていく中期・後期になると、他の部分にも違いが見られてくる可能性がある。また、現在の恋人を結婚相手として考えていない群についても、現在の恋人が結婚相手として必ずしも不十分とみなしているわけではなく、結婚が自分にとってはまだ遠いものとみなしている可能性もあるだろう。

## 4. 恋愛経験の有無による各類型のあり方について-恋愛経験によって培われるもの

恋人のいない群について、過去に恋愛経験があるか否かで得点に差が見られたものは、アガベ恋愛・結婚、マニア恋愛、マニア結婚（有意傾向）、エロス結婚、プラグマ恋愛であった。恋愛経験のある方が、恋愛相手・結婚相手に対して一貫して、愛他的感情（アガベ）、独占欲の強さ・相手に熱中する感情（マニア）をより求めている結果となった。恋愛相手と結婚相手に求めるこれらの感情の違いは、恋愛経験による違いは見られないようである。

エロスについては、恋愛経験によって、恋愛相手に対するロマンチックな感情には違いがなかった。恋人のいない現段階では、恋愛経験があってもなくても、（まだ見ぬ）恋人に対するロマンチックな感情については「想定」であることに違いはないようである。楠見（1987）においても、恋愛感情の強さが「結婚志向群」の次に強かったのは、「単純好意群（交際相手のことがただ相手が好きだから）」ではなく、「（恋人のいない）片思い群」であった。このことから、恋愛相手に対するロマンチック

な感情については、実際の恋愛経験を経なくても、強い感情を経験していることが考えられる。しかし将来の結婚相手に対しては、恋愛経験を経ることで、よりロマンチックな感情を求めるようになるようである。

また、恋人を選ぶ前に、自分の設定した基準に照らして「吟味」しようとする傾向は、恋愛経験がないと強まるようである。恋愛経験のない人は、恋人を選ぶ前に慎重になる傾向があるのかもしれない。またこの結果は、恋愛経験のない人は、恋人を想定するトリガーとして、自分の設定した基準を持ち出しやすい傾向があることを示しているのかもしれない。一方で、地位や条件を考慮する傾向について、結婚相手に対しては、恋愛相手に対するような群による違いが見られなかった。結婚相手に対する条件については、現段階で両群ともまだ明確に想定しづらいのかもしれない。

## 5. 本研究の問題点と今後の課題

本研究の問題点として、以下の2点が挙げられる。まず第1点目として、本研究の研究対象の中で、恋人のいる人が予想よりも少なかったことが挙げられる。その中でさらに、その相手のことを結婚相手として考えているか否かで分けて検討したので、それぞれのセルの対象人数が少ない結果となった。大学生であれば、恋人のいる人はかなりの高率（半数以上の割合）で見られると予想していたが、実際は23%であった。和田（1994）の調査では、調査対象者181名中恋人が1人いる人は78名（43.1%）と、本研究の割合よりもやや多い。ただ、和田（1994）の調査における調査対象者は主に大学3年生であるので、本研究の対象者よりもやや年齢が高い。年齢が高くなると、恋人のいる人の割合は増加することが考えられるので、本研究の恋人のいる人の割合は、予想よりも低いものではなく、妥当なものであるのかもしれない。今後は対象人数をさらに増やして検討する必要がある。

そして第2に、結婚類型尺度のエロス尺度の項目が3項目とやや少なく、理論的な「ロマンチックさ」を代表するような項目群とするにはやや不十分と考えられる。今後は、もう少し下位尺度内の項目を豊かにする努力がのぞまれよう。

## 文 献

- 遠藤公久・山根一郎・堀洋道 1990 大学生の結婚に対する意識(1) - 性格特性の相性観について - 筑波大学心理学研究, 12, 85-91.
- 飛田操 1991 青年期の恋愛行動の進展について 福島大学教育学部論集 (教育・心理部門), 50, 43-53.
- 堀毛一也 1994 恋愛関係の発展・崩壊と社会的スキル 実験社会心理学研究, 34, 2, 116-128.
- 伊東秀章 1997 未婚化に影響する心理学的諸要因 - 計画行動理論を用いて - 社会心理学研究, 12, 163-171.
- 神原文子 2004 女性に見る結婚の意味を問う 家族社会学研究, 15, 14-23.
- 柏木恵子・平山順子 2003 結婚の“現実”と夫婦関係満足度の関連性 - 妻はなぜ不満か - 心理学研究, 74, 122-130.
- 楠見幸子 1987 女子短期大学生の恋愛感情体験に関する研究 - 交際目的による相違について - 九州大学教育学部紀要 (教育心理学部門), 32, 65-70.
- Lee, J. A. 1977 A typology of styles of loving. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 3, 173-182.
- 松井豊 1990 青年の恋愛行動の構造 心理学評論, 33, 355-370.
- 松井豊・木賊知美・立澤晴美・大久保宏美・大前晴美・岡村美樹・米田佳美 1990 青年の恋愛に関する測定尺度の構成 1990 立川短大紀要, 23, 13-23.
- 松井豊 1993a セレクション社会心理学12 恋ごころの科学 サイエンス社
- 松井豊 1993b 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64, 335-342.
- 森本恵・中嶋有加里・山地建二 2000 大学生女子の結婚、出産、育児および就業に関する意識調査 高知医科大学紀要, 16, 65-76.
- 中井美樹 2000 若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観 立命館産業社会論集, 36, 117-127.
- 詫摩武俊 1973 第4章 恋愛と結婚 依田新・大西誠一郎・斎藤耕二・津留宏・西平直喜・藤原喜悦・宮川知彰 (編), 1973 現代青年の性意識 [現代青年心理学講座5] 金子書房
- 梅澤嘉一郎 2002 女子大生の少子超高齢化社会観 - 共学大学と女子大学とのアンケート結果から - 川村学園女子大学研究紀要, 13, 2, 85-123.
- 和田実 1994 恋愛に対する態度尺度の作成 実験社会心理学研究, 34, 153-163.

(2005年9月30日 受稿)

謝辞：本研究の作成にあたり、名古屋大学大学院教育発達科学研究科村上隆教授にご指導いただきました。記して感謝いたします。

## ABSTRACT

Differences in feelings and attitudes toward lovers and spouses:  
gender differences,  
differences regarding whether lovers are considered spouses,  
and differences between those who claim ever to have been  
in love and those who do not

Yuko AMAYA

In this study, differences in feelings and attitudes of undergraduates toward lovers and spouses were investigated. The questionnaire regarding lovers was designed by LETS-2 (Matsui, Tokusa, Tachizawa, Okuno, Okamura, and Yoneda, 1990) based on Lee's theory. The questionnaire regarding spouses was identical, except for changing the object from lover to spouse. 179 undergraduates responded to these two questionnaires. The results were as follows: (1) For lovers, the men's "agape" score was higher than the women's, and the women's "pragma" score was higher than the men's. The outcome was the same regarding spouses. (2) The "eros," "agape," and "mania" scores regarding lovers were significantly correlated to the same scores regarding spouses. (3) Respondents having a lover at the present time were divided over whether they considered their lover as a spouse. Those who did consider their lover as a spouse got significantly high "eros" scores regarding their lover. (4) Respondents who did not have a lover at the time were divided regarding whether or not they had ever fallen in love. Those who did claim that they had been in love got significantly high "agape" and "mania" scores regarding both lovers and spouses, while those who claimed that they had never been in love got a significantly high "pragma" score regarding lovers.

Key words: Lovers, spouses, LETS-2